

実践キャリア・アップ戦略の「再検討」に向けた基本方針について（案）

平成24年8月2日

実践キャリア・アップ戦略 専門タスクフォース

本年6月11日に開催された行政事業レビュー「公開プロセス」において、実践キャリア・アップ戦略について、「既存の資格制度との関係の明確化、事業効果、効果設定を行う必要があるとの意見があったことから、抜本的に再検討を行う」との取りまとめ結果となったことを踏まえ、同戦略について、以下の諸点について改めて検討を行い、その結果を25年度概算要求に反映させるとともに、可能なものについては今秋の開始時点から制度の詳細設計に取り込むこととする。

なお、検討項目のうち、介護プロフェッショナル、カーボンマネジャー、食の6次産業化プロデューサーの各分野における具体的・詳細な内容については、各々のワーキング・グループにおいて速やかに議論を行い、決定するものとする。

1. 既存の資格制度との関係の整理

- (1) キャリア段位制度が、成長分野における職業分野全体のキャリアパスを提示することにより成長分野への労働移動を促進するものであり、かつ、「わかる（知識）」と「できる（実践的スキル）」の両面を評価する枠組みであることを踏まえ、既存の資格制度や資格類似の制度等との目的や効果の差異について明確化を図る。
- (2) (1)の整理を踏まえ、各分野ごとに、キャリア段位制度の導入によって期待される効果、同制度の役割を明らかにする。

併せて、

- 各分野の既存資格等について、その目的や機能を踏まえた上で、キャリア段位制度の各レベルとの関係を明確化するとともに、
- 当該資格の取得者がキャリア段位の認定を申請してきた場合の措置を個々に判断することにより、具体的な関係付けを行う。

例えば、既存の資格の取得者について、キャリア段位との関係において、

- イ) 一定レベルの知識等を習得しているものとみなす（キャリア段位を認定する要件との代替効果を認める）
- ロ) 受講すべき教育プログラムの一部を免除する
- ハ) 代替は困難である 等

の取扱いを行うことが考えられる。

2. レベル認定者数の目標

関係省庁と諮った上で、3分野の各々について、平成26年度までのキャリア段位制度立上げ期間、及びその後の安定的な運用が期待される期間のそれぞれについて、レベル認定者数の目標を設定する。

この際、キャリア段位制度と個々の分野の政策目的との関連や目標達成に向けた具体的な工程のあり方等に十分配慮しながら検討を行う。

実践キャリア・アップ戦略の「再検討」に向けた基本方針（案）

公開プロセス取りまとめ結果

「既存の資格制度との関係の明確化、事業効果、効果設定を行う必要があるとの御意見があったことから、抜本的に再検討を行う。」

→ 検討結果を25年度概算要求に反映させるとともに、可能なものについては今秋の開始時点から制度の詳細設計に取り込む。

◆介護プロフェッショナル、カーボンマネジャー、食の6次産業化プロデューサーの各分野における具体的・詳細な内容については、各々のワーキング・グループにおいて議論を行い、決定することとする。

1. 既存の資格制度との関係の整理

- (1) 既存の資格制度や資格類似の制度等との目的や効果の差異を明確化
- (2) 各分野ごとに、キャリア段位制度の導入によって期待される効果や、キャリア段位制度の役割を明確化併せて、
 - － 各分野の既存資格等について、キャリア段位制度の各レベルとの関係の明確化
 - － 資格取得者がキャリア段位認定を申請した場合の措置を個々に判断することによる具体的な関係付けを行う。

2. レベル認定者数の目標

次の期間のそれぞれについて、レベル認定者数の目標を設定

- ①平成26年度までのキャリア段位制度立上げ期間
- ②その後の安定的な運用が期待される期間

◆この際、キャリア段位制度と個々の分野の政策目的との関連や目標達成に向けた具体的な工程のあり方等に十分配慮

実践キャリア・アップ戦略の今後のスケジュール

公開プロセスをふまえた再検討

今年度の事業展開

8月

2日

専門タスクフォース(主査:大久保参与)

- ・抜本的な再検討の方針について決定・確認
- ・各WGに具体策の策定を指示

介護プロ
フェッショナル
WG

食の6次産業
化プロデュー
サーWG

カーボンマ
ネジャー
WG

- ・既存の資格制度との関係整理
- ・レベル認定者数の目標設定

9月

25年度概算要求

事業実施機関の公募

選定委員会

- ・事業実施機関の審査・選定

事業実施機関の決定

- 各実施機関において
- ・実施体制の整備
- ・システム開発
- ・普及啓発

レベル認定事業の開始